

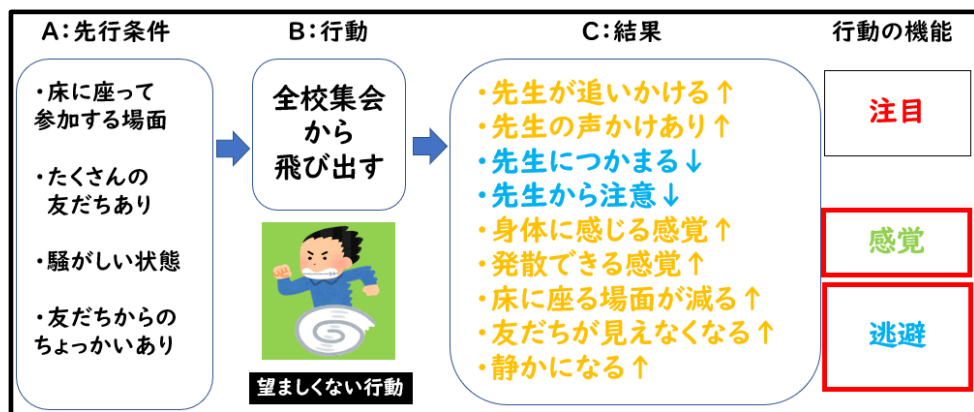


## 【適切な行動を促すための支援について】

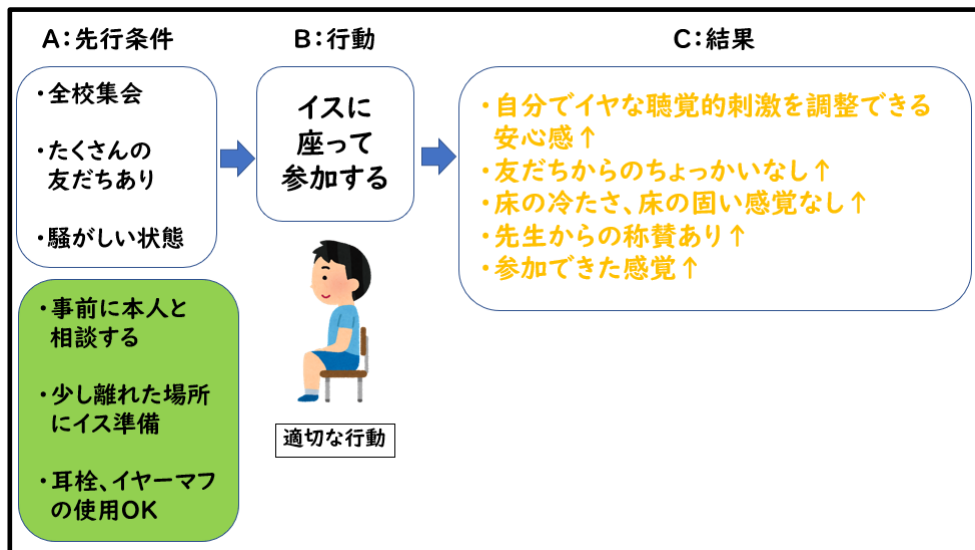
今回は、前回の「子どもたちが示す行動の捉え方について」で紹介した B くんへの支援方法について考えていきたいと思ひます。ここで紹介する支援方法は1つの案であり、子どもたちの実態や学校の状況によっては当てはまらないこともあると思ひます。紹介する内容で取り入れることができる部分や少しでも支援のヒントになることがあれば幸いです。

子どもたちが示す望ましくない行動の多くは、「本人の性格・特性」と「環境」との相互作用で生じます。子どもたちの望ましくない行動は、本人だけの問題ではありません。

B くんは、教室とは違う「騒がしい場所」や「友だちからのちょっかい」から逃避するために、「飛び出す」行動をとっていたことがわかりました。



- ・騒がしい場所が苦手(特性)
- ・床に座るのが苦手(特性)
- ・全校集会が騒がしい(環境)
- ・友だちからのちょっかい(環境)
- ・ちょっかいへの対処が苦手(特性)



今回は、B くんが「安心して集会に参加する」ことを目標に、本人の苦手な部分を可能な限り補えるように環境を整えました。事前に本人とも十分に相談しておくことが安心感や挑戦してみようという意欲にもつながります。もし、B くんが耳栓やイスの使用に抵抗がある場合は、座る順番を変更する、薄い座布団を使用する、短時間(5分など)のみの参加からはじめる、その場から離れたくなったとき先生に合図を送るなど、どのような形であれば参加が可能なのかを本人と一緒に探していくことが大切になってきます。

子どもたちが示す望ましくない行動には、必ず理由や背景があります。大人側の価値観や「～すべき」のみを押しつけるだけでなく、行動の理由を知り、適切な行動をするためにどうすればいいのかを子どもと一緒に考えていく姿勢も大事にしていければいいなと思ひます。